



日本では今年すでに、6月18日に大阪北部地震、7月には西日本豪雨災害と連続して災害が発生し、その被害は大きく、復旧作業に追われる状況が続いています。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

皆さんは、どこかで災害が起こったとき、被災地に対してどんなことを思いますか？日本は災害大国とも呼ばれていますが、いつ・どこで・どんな災害が起こるかかわからないし、自然災害の発生を防ぐことはできないのですが…、寄付や支援物資の送付など、被災地へ向けて私たちにできることもありますよね。

でも、支援物資については問題もあるようで、倉敷市では、支援物資が道に置かれたり、熊本では、たくさん送られてきた支援物資の対応に追われるなど、被災地を思い送られた支援物資が、逆に人命救助や復旧作業の妨げになるという事態となり、支援方法について考えるきっかけにもなりました。

そこで、今回の授業で皆さんに知ってもらいたいことは、寄付金や支援物資を送る以外に、どこにいてもできる支援として『被災地への応援消費』がある、ということです。

**『被災地への応援消費』とは、被災地にゆかりのある物を購入し消費することで、被災地の復興につながる支援のことを言います。**

2011年の東日本大震災の際、日本全体が式典や宴会を控えましたが、岩手の酒蔵の当主が「このままでは、経済的な二次被害を受けてしまうので、日本酒を飲むことで東北を応援して欲しい。自粛して頂くよりもお花見をして頂くことの方がありがたい。」と訴えかけ、過度な自粛ムードを一変させたこともありましたね。

買い物をする際、被災地を応援できる商品を気にして選んでみましょう。そして、私たちの想像をはるかに超えて大変な被災地へ、**ちょっぴり幸せを贈って**みませんか？

来月の授業は、「伝統工芸」です。伝統工芸とはどういうものなのか、伝統工芸品を購入することで地域にどう影響するのかを掲載しますので、ぜひご覧ください。

板野町は、エシカル消費を推進しています。

お問い合わせ 役場産業課 ☎672-5994

#### 【ひとくちメモ】

※寄付は時間の経過とともに大幅に減少する傾向にあるのに対し、被災地への応援消費は、いつもの買い物の時に行うことができるので長続きする、との調査結果が示されています。

## 板野町の取り組み

6月26日(火)、エシカル消費に取り組む方が集まり、第1回エシカル座談会を開催しました。参加者それぞれの取り組みについて話を聞いたり、意見交換をするなど、お互いの活動を知り、エシカル消費の知識を深めることができました。

また、今後の取り組みとして板野高校の漬物作りに座談会の参加者が協力することが決まるなど、参加者同士が繋がる良いきっかけの場ともなりました。



## ある日の先生

わっ…私も  
ひ…ひさ…被災地の  
お酒…



『エシカル消費』とは、人・社会・地域・環境などに配慮した商品を選択することです。